



学問のすすめ ～優れた医師と研究者の育成～

自治医科大学医学部生理学講座(統合生理学部門) 教授 矢田 俊彦

私は 2012 年 3 月まで数年間、本学大学院広報委員会の委員長を務めた。本学大学院は過去 10 年間に、修士課程の設置、社会人大学院の設置、その対象者を本学卒業生から一般に拡張するなど、様々な変革を行い広く門戸を開放してきた。従って、大学院広報委員会の任務は、これらの変革を有効に広報し、大学院入学者を増やすという、ある意味プラクティカルなものであった。しかし本来、大学院は研究を目的とするものである。若手の医師や研究者の卵に研究の面白さや意義を伝え、ともすれば忙しい現実生活の中で研究志向が失われがちな彼らの心の琴線に如何に訴えられるかが決め手であることを私は痛感した。そして、大学院とは？、研究とは？という問いを私自身に課することになった。この広報委員の仕事と 30 余年の研究経験を通して、今日私が思うことをお伝えしたいと思う。



医学には臨床医学と基礎医学、診療と研究という 2 つの顔がある。これらは全く異なる営みである。臨床医学はヒトの病気を治すことを目的とした社会の現場の営みであり、一方基礎医学は生命科学の 1 分野の学術研究の営みである。その際、臨床医学がヒトの病気を治そうとすると、成因の解らない病気や治療法が不十分な病気と直面することがしばしばあり、医療の進歩への切迫した要求が生じ、研究への期待が生まれる。一方、基礎医学には研究の成果を臨床に生かしたいとの願望があり、これが生命科学の 1 分野である基礎医学に固有のエネルギーを与え、生命科学の枠を拡張する役割を果たしている。このように臨床医学と基礎医学は互いにメッセージを送り合い、それらに応えようとする努力を活力として、スクラムを組みながら発展してきている。

臨床医学と基礎医学との間の関係は、臨床医や研究者の個人の中にも同様に存在していると思う。臨床医は患者や疾患と向き合う中で生まれた疑問を、研究で明らかに出来たらとの思いを持つであろう。一方、研究者は研究成果を臨床の現場で診断や治療に役立てたらとの思いを持つであろう。たとえそれが自分自身では出来なくとも、臨床医の場合は研究の世界を理解し、共感出来たならば、また研究者の場合は臨床の世界を理解し、共感出来たなら、自らの活動の枠をこえた想像力が育まれるに違いない。異なる現場から共通の思いを持つ者が手を組めば、協力、連携により大きな目標を実現することも可能となるであろう。その経験は、社会の必要に応えたり学問的疑問に答えることの深い満足を与えてくれ、それは、次の設問や課題に挑戦する新しい勇気を与えてくれる。挑戦する人は進化し続け、その先には豊かな人生が待っているであろう。また、「進化」と「豊かな人生」を実現するために、将来臨床医となる者が研究を実体験する時期を持つことは、学問的視野を広げるだけにとどまらず、研究の論理と実際を理解することも可能とする。一旦これを身につければ、将来自分が研究を行う際の障壁は格段と低くなり、また基礎研究者との共同研究を行う際のセンス、クロストークの言語力、そして勇気を与えてくれる。私が若い臨床医に研究を勧め、大学院進学を勧める所以である。

最後に、私が尊敬する William Osler 博士の言葉を紹介したい。「近代医学の父」と称されるオスラー博士は、

医学部の最高峰の1つ米国Johns Hopkins大学の内科学を創設し、多くの優れた医師を育てたことで有名な臨床医である。一方で、師はカナダに生まれ、解剖学と生理学を学んだ後に内科学を専攻した「基礎医学を修め、研究マインドを持つ臨床医」である。師は卒業する学生に、“科学的思考の訓練は生涯を左右する”というメッセージを盛り込んだ次の言葉を贈っている。『医師にとって、科学的訓練は計り知れないほどの貴重な贈り物であって、それは正確な思考習慣を身につけさせ、識別・判断力を養う。その能力が身につくのはじめて医師は診療の不確かさの中にあって賢くなり救われる。』¹⁾。科学的訓練のためには勉強が必要であるが、それに関して師は以下の指針を示している。『絶えず勉強し続けよう、羽ばたく鳥のように』、『毎日繰り返すことを効率の良いシステム的な習慣とする』、『心が南を向いている、陽気な気持ちを持つように』¹⁾。少し大変そうに見える生涯勉強であるが、習慣としてしまえば、南に向かう楽しい道になるとの言葉であろう。オスラー博士の学生への言葉は、師の経験を凝縮した含蓄の深いものであり、100余年を経た今日も私達に「学問のすすめ」を力強く説いてくれている。

1. 平静の心：オスラー博士講演集、日野原重明、仁木久恵訳、医学書院、2003年。（一部矢田が省略編集）

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

【発行】自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 学事課大学院係 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>